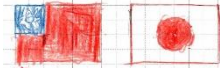


第4学年花組 「4花がつなぐ 愛媛と台湾」

指導者 吉岡 舞



単元目標

- 台湾の文化やよさについて理解するとともに、自分たちの地域のよさを台湾の友達に伝えるための方法や自分にできることが分かる。
- 台湾のことを知ったり、地域のよさを伝えたりするための情報を効果的に集め、相手意識を持ってまとめたり表現したりする。
- 異なる文化を受け入れ尊重しようとするとともに、地域のよさを進んで伝え、自ら地域にかかわっていきこうとする。

全24時間（ビルドタイプ×スパイラル型）

子どもの姿と支え方

Choice（第4～9・12～20時）

調べたいことやその方法、かかわりたい人やもの、表し方などを子どもが選択し、見通しや期待感を持って探究できるよう、人とのつながりを作ったり、効果的な時間や場の設定を行ったりする。

まとめ・表現

Challenge（第3・11時）

交流会を振り返る場を設定したり交流相手からの感想を共有したりすることで、課題の設定や見通しを持った探究ができるようにする。

情報の収集

整理・分析

追究

第4～6時：台湾ってどんな国？

第2・3時：第1回交流会&ふり返し

第1時：台湾の小学校と交流しよう！

課題の設定

出会い

今の子ども姿

5月に配布された「道後温泉桶の絵コンテスト」のちらしをきっかけに、道後に興味を持った子どもたち。あまり知らなかった身近な地域・道後だったが、道後温泉について調べたり実際に入浴したりすることで知識を増やし、またその魅力を肌で感じてきた。7月に道後温泉本館が改築130周年を迎えることを知り、「お祝いをしたい」という思いから、道後商店街で「ソーラン節」を披露させてもらうことができた。魅力ある自分たちの地域の、記念すべき年にかかわることができた喜びや、道後の人とつながるよさを実感した子どもたちは、改めて地域の魅力に気付くとともに、積極的に地域にかかわっていききたいという思いも高まっている。

「学びに向かう力」が涵養されている姿

台湾の人たちの暮らしや文化について理解を深めるとともに、自分たちの地域のよさを再認識し、愛着を持って進んで地域とかかわろうとしている姿。

振り返り

第23・24時：第3回交流会
&ふり返し

第21・22時：道後の“推し”は
(本時) うまく伝わるだろうか？

第17～20時：“推し”を動画で伝えよう！

第14～16時：道後の“推し”大発見！

第12・13時：道後の何をどう伝える？

第10・11時：第2回交流会&ふり返し

第7～9時：台湾の友達に何を伝える？

Check（第24時）

探究を通して身に付いた知識・技能の有用性や自分自身の成長、地域とのよりよいかかわり方について考えることができるよう、視点を明確にした自己評価を行ったり教師や共同学習者からの評価を返したりする。

Critical Thinking（第21・22時）

どうすれば言葉の異なる相手に道後の魅力を効果的に伝えられるか考えるために、様々な資料や意見からこれまでの学習を見詰め直す時間を設定し、学びを調整できるようにする。

Creativity（第11・24時）

課題を解決できたことや他者のために役立ったことを実感し、学習の成果や価値を見出すことができるよう、交流相手からの感想や評価を共有する。

Collaboration（第2・10・23時）

交流会を繰り返し行いつながりを作ることで、異文化を理解しようとする気持ちを高めるとともに、相手意識を持って課題を解決することができるようにする。

単元構想の意義

台湾の小学校との交流の機会をいただいたことから、「国際理解」と「地域発信」の両側面から本単元を構想した。近いようで子どもたちはよく知らない台湾との交流を重ねることにより、台湾の人たちの学校生活や暮らし、大切にしている文化等について理解を深め、国際的な視野を広げることができる。また、台湾の友達に地域のことを伝える活動を取り入れ、「自分たちがもっと地域を知らないといけない」「もっと調べたい」という課題意識を高める。言語の異なる相手に伝えるためには、どのような情報が必要か（情報の収集）、収集した情報をどのように使うか（整理・分析）、どのようにまとめるか（まとめ・表現）などよりよい方法を考えながら課題を解決していくことで、それぞれの資質・能力の向上や探究の質の高まりも期待できる。これまで見てきた「地域」を台湾の人目線で見ることによって、捉え直し、地域に対する見方が変わったり広がったりすることも、子どもたちにとって、より地域を知り、愛着を持ってかかわっていきこうとする手掛かりになるのではないだろうか。

本時の授業 (21 / 24)

- 1 日時 令和6年12月2日(月) 9:45~10:30
- 2 場所 4年花組教室
- 3 目標 道後の魅力や伝えたいことがよく伝わる表し方に気づき、動画をよりよくするために必要なことを考える。

本時における「学びに向かう力」が涵養されている姿

- 見直しや友達との対話から作成した動画の改善点を見付け、よりよくしたいと粘り強く再考している姿。
- 相手意識を持ち、自分の伝えたいことを効果的に伝えるために必要なことを見いだしている姿。

学習活動	1 「いいねランキングベスト3」に選ばれた動画のよいところを話し合う。	2 自分の動画をよりよくするために必要なことを考える。	3 本時の学習を振り返る。	場面	単元の評価規準
<p>予想される子どもの意識の流れ</p>	<p>「いいねランキング」の結果はどうだろう?</p> <p>台湾の友達にうまく伝わる動画になっているかな。</p> <p>道後の魅力がもっと伝わる動画にするために必要なことは何だろう?</p> <p>表情で楽しさやおいしさがよく伝わるね。</p> <p>伝える友達に合わせた“推し”を選んでいるね。</p> <p>自分が体験した様子がよく伝わるよ。</p> <p>短い言葉で説明を入れているからすぐ分かるね。</p> <p>伝えたいものをしぼって分かりやすいね。</p>	<p>自分の動画をもう一度見直してみよう。</p> <p>おすすめしたいものはたくさんあるけれど、3つにしぼろう。</p> <p>自分が体験している写真をもっと増やしたら楽しさが伝わるかな。</p> <p>説明が長かったから、少し短くしようかな。</p> <p>自分の感想も入れたら、よさがわかりやすいね。</p> <p>目立たせたいところをコメントで強調してみよう。</p> <p>もう一度取材して、写真を増やす必要があるそうだな。</p> <p>どこを改善したらいいか、友達にアドバイスをもらおう。</p>	<p>今日の学習をふり返ろう。</p> <p>○○さんに道後の魅力がもっと伝わるように改善しよう。</p> <p>今日気付いたことを修正して、もっと道後の魅力を知ってもらいたいな。</p> <p>次の時間は、もっといい動画ができそうだな!</p> <p>自分で写真を撮りに行ってみようかな。</p>	<p>出合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 探究したい課題を設定し、見通しや期待感を持って学習に取り組もうとしているか。【主体的に学習に取り組む態度】 <p>追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 課題解決に必要な情報を、取捨選択しながら収集したり、相手や目的に応じて効果的・協働的にまとめたり表現したりしているか。【思考・判断・表現】 ● 異なる文化を受け入れ尊重し、理解を深めようとしているか。【主体的に学習に取り組む態度】 ● 台湾の友達に地域のよさを進んで伝えようとしているか。【主体的に学習に取り組む態度】 ● 相手意識や目的意識を明確にし、地域のよさを台湾の友達に伝えるための方法や自分のできるものが分かっているか。【知識・技能】 ● 相手意識を持って道後のよさを伝えることで伝え方のよさや改善点に気づき、更によくするために必要なことを考えることができたか。【思考・判断・表現】 	<p>振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 台湾の暮らしや文化、自分たちの地域のよさについて理解することができたか。【知識・技能】 ● 伝える活動を通して道後のよさをより実感し、地域に進んでかかわっていこうとしているか。【主体的に学習に取り組む態度】
<p>指導 (○) と 評価 (●)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に行っておいたコンテストの「いいねランキング」上位の動画を視聴することで、よりよい表し方に着目しようとする気持ちを高める。 ○ みんなで共通理解した「いい動画」のポイントを再度確認し、意識付けを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の動画を見直す時間を設定し、よりよく伝えるために何が必要かじっくりと考えられるようにする。Critical Thinking ○ 友達から意見を聞いたり、自分の思いを伝えたりするなど、対話によって課題解決への思考を促す。 ● 道後の魅力や伝えたいことがよく伝わる表し方に気づき、動画をよりよくするために必要なことを考えることができたか。【発言、ノート】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ キーワードによる振り返りで、本時の学びを焦点化する。 ○ 課題の解決に向けて期待感を高められるよう、本時の学びを価値付けする。 		